一軍作命甲第五五号

第一軍命令

九月二十三日午后三時
於涿県戰斗司令所

一、各兵団連日の奮斗に依り保定既設陣地に拠りし敵は多大の損害を受け南方及西南方に潰走中なり

二、軍は一部を以て敵を追撃せしめ主力は保定附近に於て隊伍の整頓をなしたる後速に石家莊に向ひ追撃せんとす

三、各師団は一軍作命甲第四三号に基き速に隊伍を整頓し石家莊に向う追撃を準備すべし前進開始の時機は九月二十九日朝と豫定するも別命す

四、一軍作命甲第四三号第五項に基く追撃隊は自今軍直轄とし　軍追撃隊と称す

軍追撃隊は平漢鉄道に沿う道路を石家莊に向ひ追撃すべし

軍参謀八野井少佐、第二十師団に於て編成する追撃隊、歩兵第五

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十聯隊第三大隊及兵站自動車の一部を配屬す

五、第二十師団長は歩兵一聯隊（一大隊欠）野砲二中隊を基幹とする追擊隊を方順橋に出し軍追擊隊長の指揮に入らしむべし

六、歩兵第五十聯隊第三大隊は鉄道輸送に依り保定に到り軍追擊隊長の指揮に入るべし

七、第六師団長は独立工兵第四聯隊の一中隊を保定駅に於て原所屬に復帰せしむべし

又独立機関銃第五大隊、独立輕装甲車第一中隊、軍直重砲隊及野戰瓦斯第六小隊同第十三中隊の宿営給養を区処すべし

八、石家莊に向う追擊のための作戰地境を左の如く定む

第二十師団、第十四師団間

白莉庄（望都西北方約七粁）甄路（定県北方約十八粁）

西岸城（新樂西北方約十粁）蒲田（靈壽東方約八粁）を連ぬる線

第十四師団、第六師団間

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

平家莊駅、方順橋駅、望都駅、定県東北端、定県西南端、麥酒店駅、東長壽駅を連ぬる線

線上は左師団に属す

九、独立機関銃才五大隊、独立輕装甲車才一中隊、軍直重砲隊及野戰瓦斯才六小隊同才十三中隊は続いて保定に向ひ前進し才六師団長の区処を受くべし

七、野戰高射砲隊は左の如く位置し防空に任ずべし

近衛師団才一野戰高射砲隊、高碑店

近衛師団才二野戰高射砲隊

才三師団才一才二才三野戰高射砲隊

先任隊長の区処を以て保定

十一、独立工兵才四聯隊は続いて保定―石家莊道の交通作業に任ずべし

才六師団に配属の一中隊を保定駅に於て其指揮に復帰せしむ

十二、才一軍通信隊は軍司令部、各師団及軍直轄隊間の連絡に任ずべし

詳細は別命す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十三、予は涿県戦斗司令所に在り
明後二十五日保定に入城す
才一軍司令官　香　月　中　將

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

訓示

九月十四日、軍の攻勢前進を開始して以来僅に旬日此間各兵団は優勢なる敵に会するも直に敢然之を撃破し其逃くるや疾風迅雷道路の不良、補給の困難に介意することなく、急追に次くに急追を以てし随所に敵を壊滅して多大の損害を与へ長駆実に二百有餘粁稀に見る大追撃を敢行し十有五萬の敵をして対応の暇なく潰滅に陥らしめ堅固なる保定の既設陣地をも一挙に突破して此に本会戦に於ける軍の企図を完全に達成し皇軍の威武を中外に宣揚せり是偏に上

大元帥陛下の御稜威と神明の加護とに依るものなること勿論なりと雖又各兵団、各部隊の壮烈果敢なる奮斗の反復、迅速放膽なる機動、断乎たる追撃の強行とに依り獲得せる成果にして本職は各将兵の忠誠勇武に対し感激措く能はず衷心感謝に堪えざると共に特に此間職に殉したる忠勇義烈の将兵に対し厚く之を悼む

今や保定は已に攻陥せりと雖軍の任務達成の為には尚一層の奮斗を要

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

するものあり

宜しく半途の成功に甘することなく、愈々奮勵努力速に敵の抵抗意志を破摧して戰局を終末に導き以て宸襟を安んし奉らんことを期すべし

右訓示す

昭和十二年九月二十三日

才一軍司令官　香　月　中　將

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

石家庄に向う追撃計画

九月二十七日　兎狩血情天津より空輸各師団分配

二十八日
二十九日
三十日　才十四予防接種　軍前進命令下達

石家荘にコレラ流行しありとの情報あり、成算を加味して追撃行動を規正す又才二軍は子牙河に沿ひ前進中にしてその戦場進出時期と才一軍の行動とを調和するや方面軍の希望あり

十月

一日　前進行動発起　配属部隊の入換を主とす

二日　前進（完県、方順橋の線より前進）

三日　前進

四日
五日　曲陽、完県の線に停止（才二回予防接種）

六日　前進

七日　前進　秋日夕各兵団先頭所令地点に集結

八日　敵陣地前に集結

九日
十日　攻撃準備

十一日　攻撃開始

七、十一、日（兎狩完成）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一軍作命甲第六二号　別紙

軍隊区分

軍迫撃隊（十月六日頃迄）

長　歩兵第三十六旅団長　牛島少將

歩兵第三十六旅団司令部

第六師団の歩兵三大隊　野砲一大隊、独立輕装甲車

一中隊を基幹とする部隊

第十四師団の歩兵一大隊

第二十師団の歩兵二大隊、野砲二中隊を基幹とする部隊

兵站自動車の一部

第二十師団

欠　除部隊（十月六日頃迄）

軍迫撃隊に属する部隊

配属部隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立機関銃第四大隊
野戦重砲兵第三聯隊（野戦重砲兵第一旅団輕重半部屬）
追擊第三大隊
第十四師団
欠除部隊（十月六日頃迄）
軍追擊隊に屬する部隊
配屬部隊
独立機関銃第五大隊
独立輕裝甲車第一中隊
戦車第一大隊
同　第二大隊
野戦重砲兵第六聯隊（野戦重砲兵第二旅団輕重半部屬）
追擊第五大隊
第二師団第一架橋材料中隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才六師団

欠除部隊（十月六日頃迄）

軍迫撃隊に属する部隊

配属部隊

野戦重砲兵才二旅団（才六師除及旅団輜重半部欠）

軍直重砲隊

才一軍砲兵情報班

独立氣球才一中隊

才一野戦測量隊基点班

才二師団才二架橋材料中隊

才十四師団架橋材料中隊

才百八師団（中將　下元熊彌）

欠除部隊

歩兵才百四旅団

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

配屬部隊

独立機関銃才九大隊

野戦重砲兵才六旅団（才十四聯隊及旅団輜重半部欠）

直轄部隊

歩兵才百四旅団（歩兵才五十二聯隊欠）

独立山砲兵才一聯隊

独立野戦重砲兵才八聯隊

近衛師団才一、才二野戦高射砲隊

才三師団才一、才二、才三、野戦高射砲隊

独立工兵才四聯隊

才一軍通信隊

野戦瓦斯才十三中隊

同　才六小隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一軍作命甲第六二号

第一軍命令

九月二十八日午后一時

於保定軍司令部

一、涿州保定会戦に於て潰走せし敵は石家莊附近及其以南に退却せり

平山縣西北方地区より正定、石家莊附近を経て滹沱河南岸藁城安平附近に亘る間には一連の陣地あり

二、軍は十月一日行動を起し石家莊に向ひ追撃せんとす

三、軍追撃隊は新乗に位置し軍の前進を掩護すべし

各師団の先頭概ね沙河の線に進出せば其編成を解き第二十師団部隊は行唐に到り爾余の部隊は新乗に於て夫々原所属に復帰すべし

獨立輜重甲車第六中隊は第六師団に配属す

四、第二十師団、第十四師団及第六師団は十月一日行動を起し概ね十月九日迄に左の地区に集結し爾後の攻撃を準備すべし

第二十師団　靈壽西北方地区

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才十四師団　大平庄化及鎮東叩村を連ぬる線以西楮邱店陳家疃

韓家庄、祖門一帯の地区

才六師団　正定東北方地区

十月四、五両日は概ね曲陽、定県安国を連ぬる線附近に於て休止すべし　但し左記部隊は保定より左の如く行軍すべし鉄道輸送に関しては鉄道監部の計画する処に拠るべし

獨立輜装甲車才一中隊

戦車　才一大隊

同　才二大隊

鉄道輸送

野戦重砲兵才六聯隊（野戦重砲兵才二旅団輜重半部属）

才二十師団作戦地域を当該師団長の区処に依り行唐に前進

軍直重砲隊　約半部は鉄道輸送

軍作戦地域を左の如く定む

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才二十師団　才十四師団間

北城（方順橋北方）白紵庄、軀路、賈庄（沙河南岸）南門を連ぬる線

才十四師団　才六師団間

前代流（大册河南岸）保定城西北角、保定城西南角、小朱寨、干家莊駅南側南格莊、方順橋駅南側許村、望都駅東側馬家村、定県東北端、定県西端、秦西店新樂北側陶家庄、西長壽永安村（正定駅西北方）を連ぬる線

線上は左師団に属す

才十四師団及才六師団の軍車輛は各々隣接師団長の区処を以て保定街道を前進することを得

六、各師団は十月一日新作戦地域内に転移すべし

七、才西八師団は保定街道を前進し正定北方才十四師団作戦地域内大平庄、化皮鎮、東叩村、を連ぬる線以東、大寨、趙庄、豊各庄、南化

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一帶の地区に集結すべし

徐水より前進の時機は別命す

八、歩兵第百四旅団（歩兵第五十二聯隊欠）は一部を以て保定以北平漢鉄道及高碑店、易県間の鉄道警備に任せしめ主力は保定に前進すべし

九、獨立山砲兵第一聯隊、獨立野戰重砲兵第八聯隊、野戰瓦斯第十三中隊、同第六小隊は続いて保定に前進すべし

十、野戰高射砲隊は左の如く位置し各々先任隊長の区処を以て防空に任ずべし

近衛師団第一、第二野戰高射砲隊　新樂

第三師団第一、第二、第三野戰高射砲隊　保定

十一、獨立工兵第四聯隊及第一軍通信隊は前任務を続行すべし

十二、予は保定に在り

第一軍司令官　香月中將

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

石家莊攻撃の爲の作戰計画

十月三日　起案

方針

一、軍は十月九日迄に滹沱河北方地区に兵力を集結し十月十日より攻撃を開始し敵を石家莊附近に於て撃滅す

二、敵兵潰走せば速に南方に追撃し滹沱河、滏陽河中間地区に在る敵と共に之を順德以北に於て捕捉す

三、順德以南への追撃は当時の情況に依るも有力なる一兵団を以て黄河近く進出する場合あるを豫期す

此間一部を太原方向に派遣し、可成遠く正太鉄道を確保せしむ

各師団行動の概要

四、第二十師団は十月十日より滹沱河々畔の敵を攻撃し之を東南方に圧迫する如石家莊南方高邑附近に進出して敵の退路を遮断す

此間一部を以て正太鉄道に沿ふ道路を太原方向に追撃し可成遠く彭鉄道を確保せしむ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、才十四師団は十月十一日より滹沱河々畔の敵を攻撃し石家莊西方地区に進出す

次て機を逸せず平漢鉄道及之に沿ふ道路を順德東西の線に追撃す

六、才六師団は準備完了次才先づ正定を略取し次て滹沱河々畔の敵を攻撃して石家莊東南方地区に進出す

次で機を逸せず主力を以て趙州附近に各一部を以て寧晉及柏鄉附近に追撃し滹沱河、滏陽河中間地区に在る敵の退路を遮断す

滹沱河渡河攻撃は軍命令に依るも十月十二日と豫定す

七、才百八師団は当初正定北方地区に位置す

才六師団の正定攻略に伴ひ一部を以て平漢鉄道附近滹沱河南岸の敵に対し陽攻を行ひ才六師団の渡河を容易ならしめ次で才六師団戦列部隊の滹沱河渡河に続き才六師団攻撃の戦果を東南方に擴張する如く東鹿附近に進出して敵を壊滅す　滹沱河の景況により平漢鉄道方面より歩兵の一部を渡河せしめ石家莊北方地区の敵を攻撃せしむるとあり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一軍作命甲第七〇号

第一軍命令

十月四日午前八時
於保定軍司令部

一、滹沱河々畔の敵情別紙要図（情報図及敵兵団配置要図）の如し

第二軍は其主力を以て津浦線方面より第一軍に策応し敵主力の背後に向ひ前進中なり

第一、第二軍の作戦地境を左の如く延伸せらる

霸県、任邱、肅寧を連ぬる線（線上は第一軍に属す）

二、軍は速に滹沱河々畔に進出し当面の敵に対し攻撃を準備せんとす

臨時航空兵団は依然主力を以て軍の攻撃に協力する筈

三、各師団は速に滹沱河々畔に進出し別紙計画に基き攻撃を準備すべし

第二十師団に獨立輕装甲車第二中隊及獨立山砲兵第一聯隊を又第六師団に獨立野戦重砲兵第八聯隊を配属す

四、作戦地境を左の如く延伸す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十師団、第十四師団間

南四、北胡莊、北海山（獲鹿東側）、官家庄（石家莊南方約八粁）を連ぬる線

第十四師団、第六師団間

永安村、南高吉（石家莊北方八粁）、油源村（欒城西北方約八粁）を連ぬる線

線上は左師団に属す

五、歩兵第百四旅団（歩兵第五十二聯隊欠）は前任務を続行する外軍の前進に伴ひ正定以北平漢鉄道の警備に任ずべし

歩兵二中隊を新樂に位置せしむべし

六、野戰高射砲隊、獨立工兵第四聯隊及第一軍通信隊は前任務を続行すべし

七、野戰瓦斯第十三中隊及同第六小隊は其整備完了迄保定に位置すべし

八、予は保定に在り

十月七日戰斗司令所を新樂に進む

第一軍司令官　香月中將

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

別紙

石家莊攻略計画

方針

一、軍は十月九日より攻撃を開始し敵を石家莊附近に於て撃滅す

二、敵兵退却せば速に南方に追撃し滹沱河、滏陽河中間地区に在る敵と共に之を順德以北に於て捕捉す

三、順德以南への追撃は当時の情況に依る

各師団行動の概要

四、第二十師団は十月九日より滹沱河々畔の敵を攻撃し之を東南方に圧迫する如く石家莊南方高邏附近に進出して敵の退路を遮断す

此間有力なる一部を以て正太鉄道に沿ふ道路を太原方向に追撃し可成速く該鉄道を確保せしむ

五、第十四師団は十月十日より滹沱河々畔の敵を攻撃し石家莊西方地区に進出す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

次で機を逸せず平漢鉄道及之に沿う道路を順徳東西の線に進撃す

六、才六師団は進備完了次才先づ正定を略取したる後滹沱河々畔の敵を攻撃して石家莊東南方地区に進出す

次で機を逸せず主力を以て冀州附近に各一部を以て寧晉及柏鄉附近に進撃し滹沱河、滏陽河中間地区に在る敵の退路を遮断す

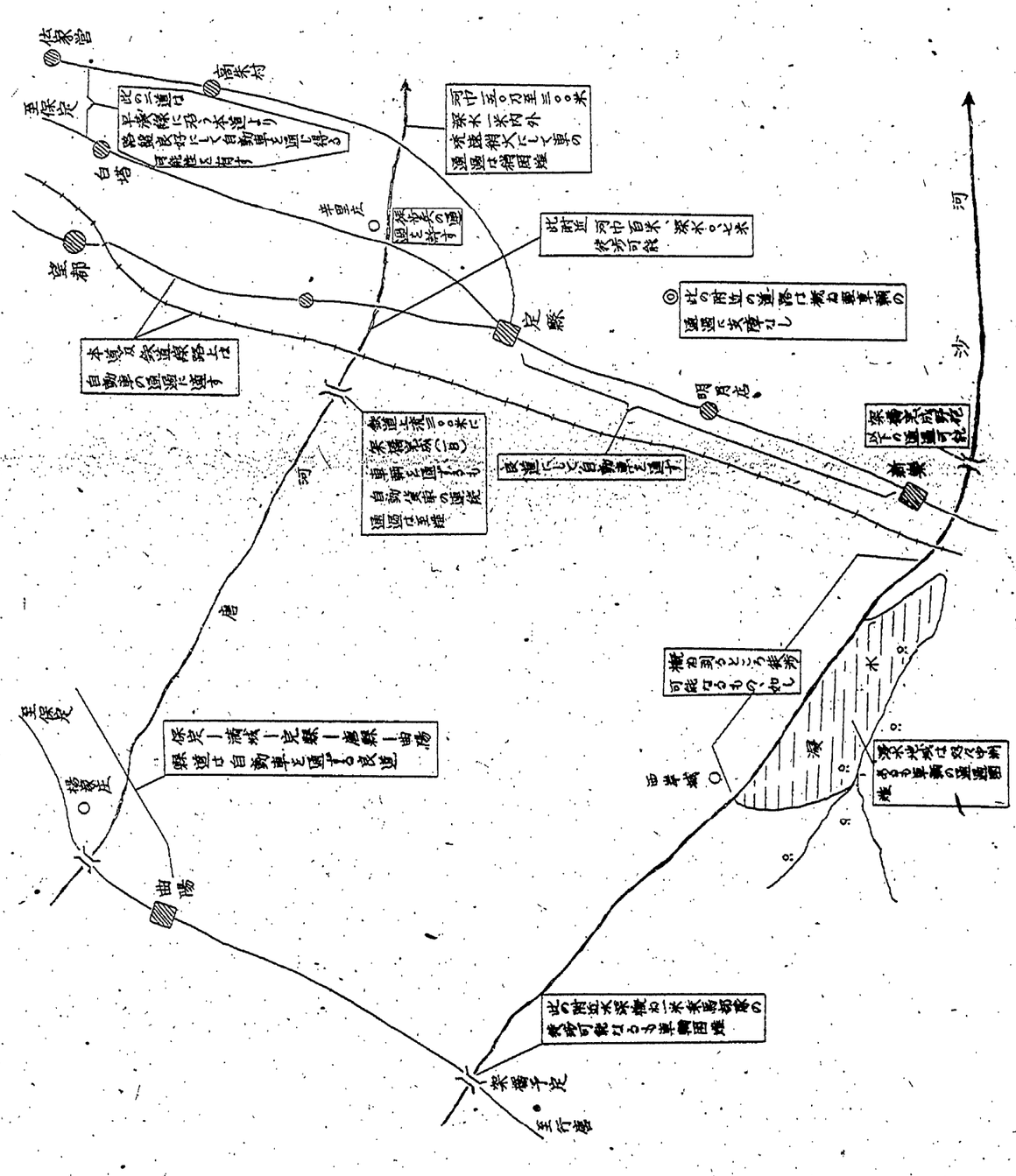
滹沱河渡河攻撃開始は軍命令に依る

七、才百八師団は当初正定北方地区に位置し才六師団戦列部隊の滹沱河渡河に続き才六師団攻撃の戦果を擴張する如く束鹿附近に進出して敵を殲滅す

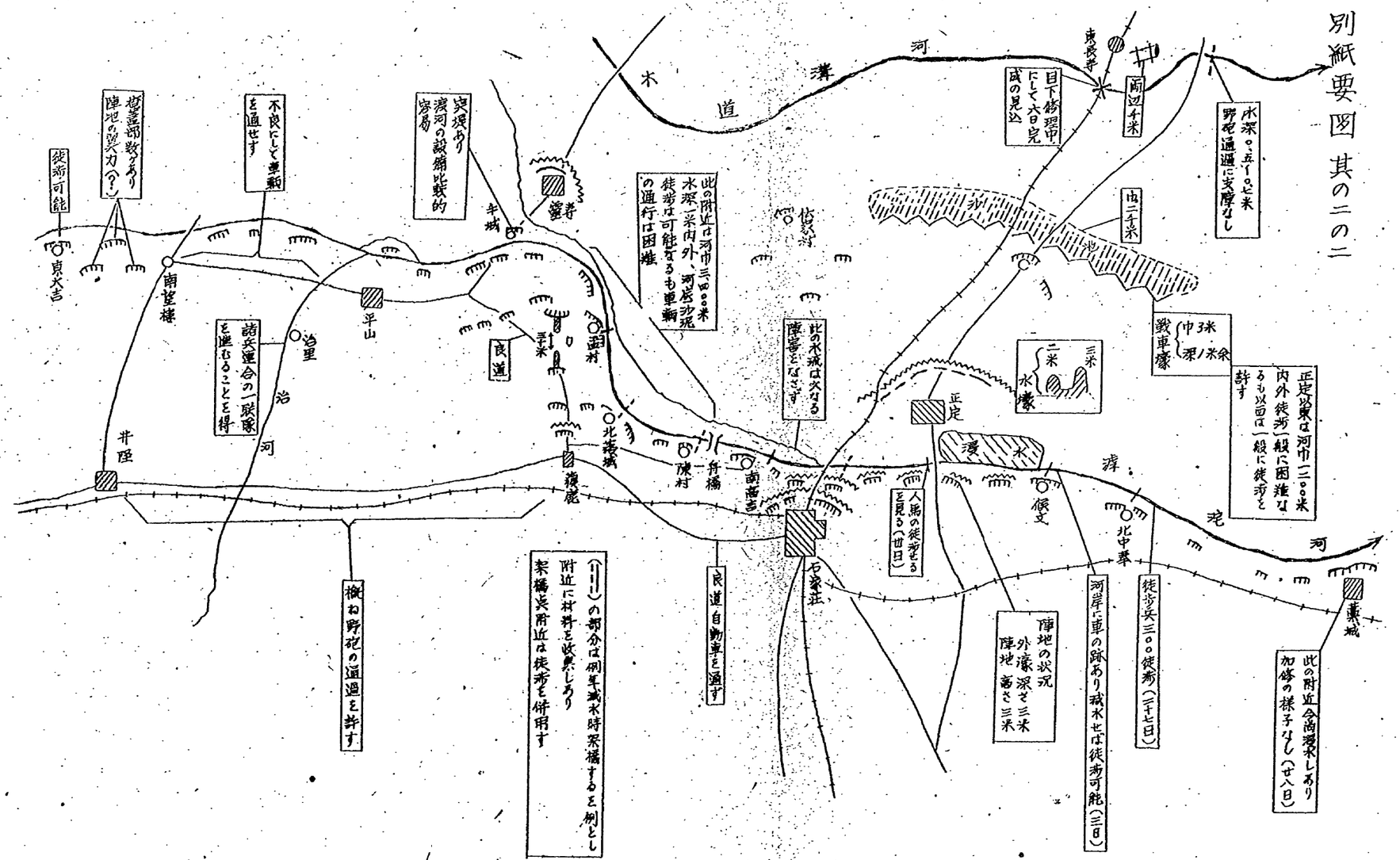
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

別紙要図其の二の一

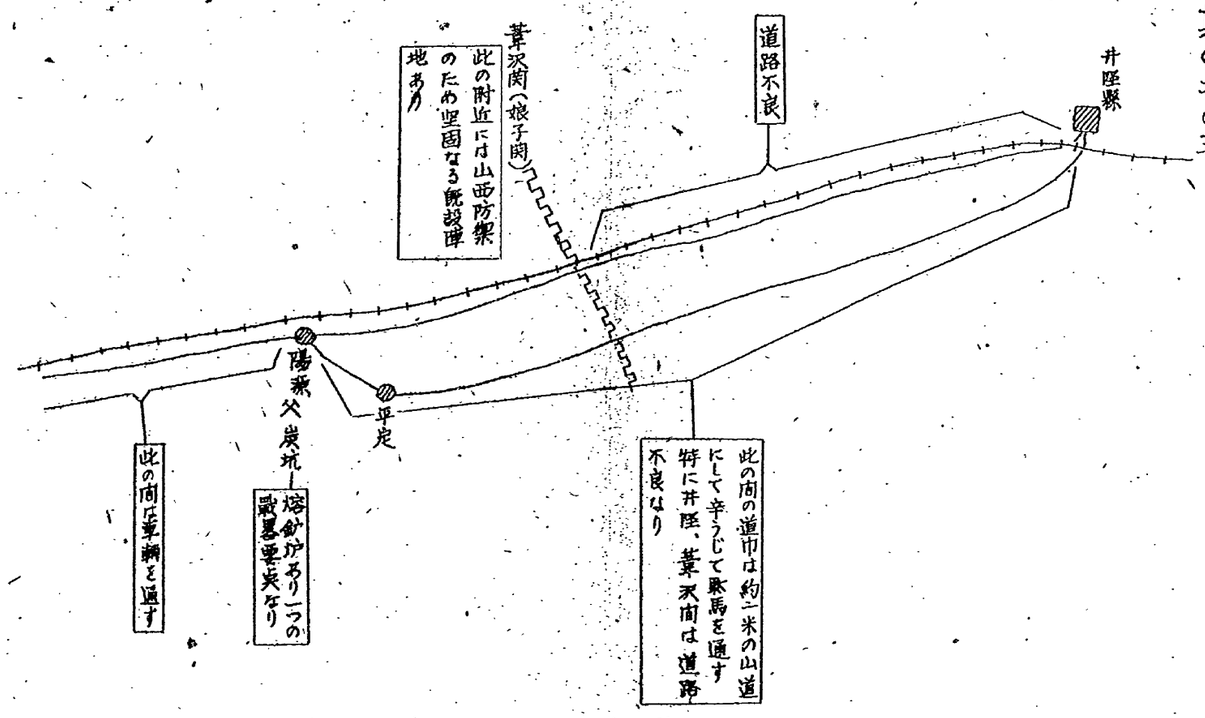


別紙要図 其の二の二



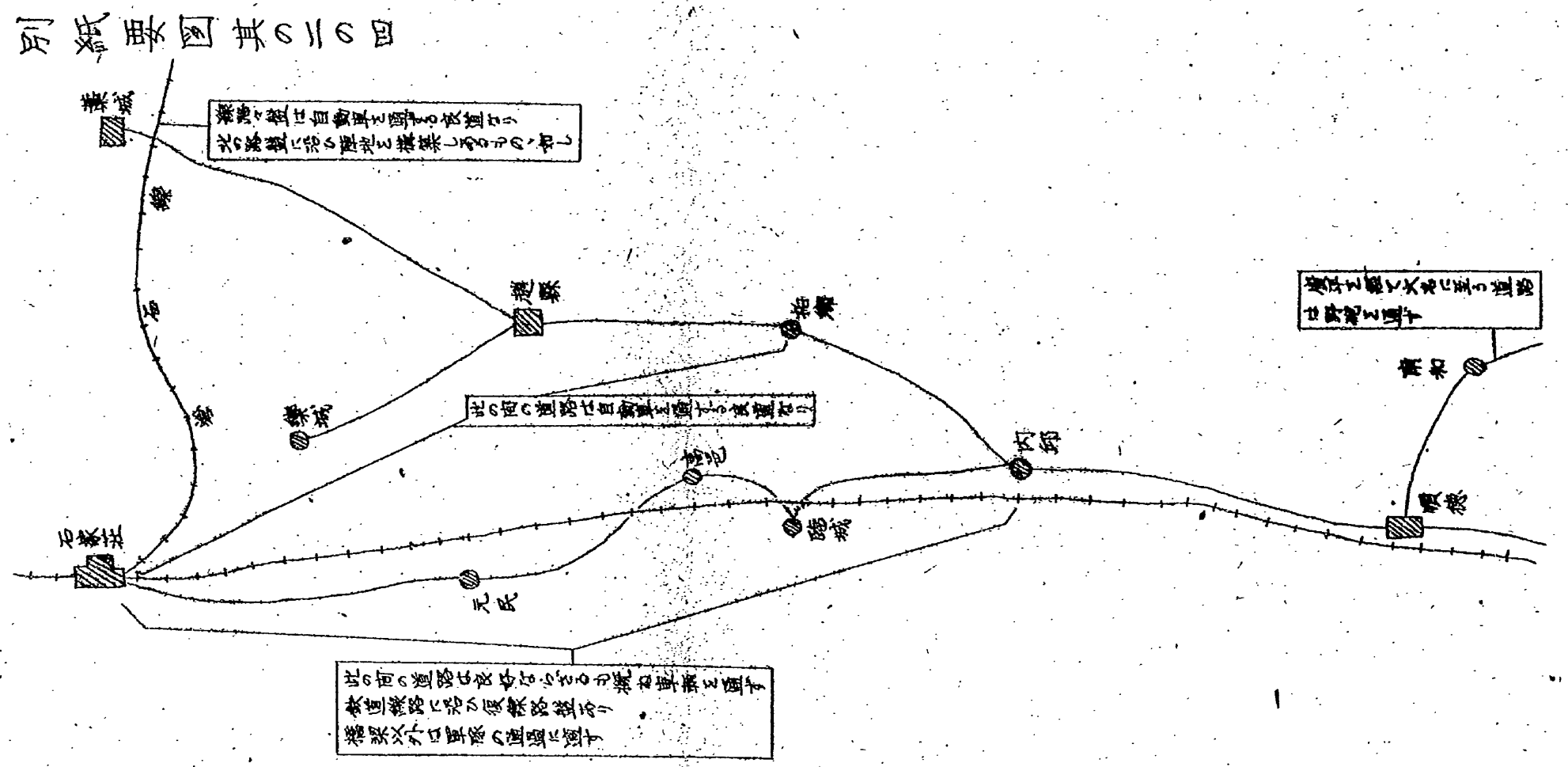
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

別紙要図其の二の三



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp


自シリヤ国境線
海
海
海

寫

参謀長

北支及内蒙方面に作戦せる軍の將兵は艱難を渡り辛苦を嘗み克く長城の野を征きて辛苦と缺乏とに堪へ最驍勇敢なる所敵陣を粉砕し皇威を中外に宣揚せり朕深く其忠勤を佳尚す思うて愈丸に殪れ病痍に傷れたる者に及へは寔に怛恒に勝へす

惟ふに派兵の目的を達し東洋長久の平和を確立せむとす前程尚遠遠なり爾等益ゝ志氣を涵養し艱難を克服し以て朕の信倚に副はむことを期せよ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

方面作命甲第一二六号に基く第一軍作戦計画　　十一月十九日起案

其一　方針

一、軍は山西省方面に於ては第二十師団及第百九師団を以て太原平地の確保に任ぜしめ平漢線方面に於ては第十四師団及第百八師団を以て宋哲元軍の殘部を新黄河以遠に驅逐したる後順德、彰德、大名、威県の間に位置し河北平地の確保に任ぜしむ

二、敵の小企図に対しては各師団及兵站配屬部隊をして其作戦（警備）地域内に於て対応処理せしめ大規模の反攻に対しては軍の新一指揮により当該正面の師団を以て之を撃砕す

所要に応じ一部兵力を正太線に沿ふ道路を利用し河北平地、太原平地間に彼此融通することあり

其二　山西省方面

三、第百九師団を以て太原附近、第二十師団の一部を以て陽泉、昔陽附近、主力を以て繁峙附近に位置し太原平地の確保に任ぜしむ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才二十師団の陽泉附近に在る部隊は所要に応じ石家莊方面に招致することあり

兩師団作戦地境を左の如く定む

河樹底（関城鎮東々南方約二十三粁）鳴鑼鎮六堡鎮、集義村、祁県文水道上汾河渡河点、汾河の線　線上は才二十師団に属す

其三　平漢線方面

四、才百八師団をして衛河を渡り新黄河々畔に向ひ作戦し宋哲元軍の殲部を新黄河以遠に壓迫せしむ

此間大名に在る才十四師団の一部をして適時衛河を越へて東樂附近に進出し才百八師団の作戦を容易ならしむ

五、才十四師団主力は才百八師団の作戦間鄭州付近に於て所要の態勢に在らしむ

六、才百八師団前記作戦を終了せば才十四師団は現配置に復し才百八師団は兵を旋し一部を以て威県附近主力を以て順德附近に集結せしむ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

但し情況に依り新黄河々畔の要地に一時兵を停むることあり

此時期に於て第十四師団の歩兵一大隊、第百八師団の歩兵二大隊

特設山砲兵大隊、十五榴一大隊を石家莊に集結せしむ

七、如上第十四師団及第百八師団の新配置を以て河北平地を確保す

八、兩師団作戦地境を左の如く定む

新黄河に向う作戦間は特に設けず

新配置完了後

韋庄（武安西北方約十二粁）臨洺關、南館陶の線

線上は第百八師団に屬す

九、第五師団は石家莊附近進出後歩兵三大隊野砲一大隊を基幹とする部

隊を正定に主力を保定附近に集結せしむ

集結完了の時を以て方面軍直轄とせらる

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一軍作命甲第一三九号

十一月十六日午后六時

於 石家莊軍司令部

第一軍命令

一、太原平地の敵は介休以南に退却せり。離石、靈石及和順附近には一部の殘敵あり　臨汾平地及潞安には尚敵あるか如し

二、軍は第五師団は山西作戰を終了し次期作戰準備の爲河北省平地に転進す

第百九師団及第二十師団を以て北部太原平地を確保し敵の反攻に際しては之を攻擊し南部太原平地に於て殲滅せんとす

三、第百九師団は太原附近を守備すべし

南方に対する攻勢拠点として各々一部を以て清源及徐溝を保持すべし　新作戰地域に入るは第五師団の大部鳴謙鎮以東に進出せし時後とし細部は第五師団と協定すべし

昔陽守備隊引揚の時機は別命す

四、第二十師団は主力を以て麻家附近を、歩兵四大隊を基幹とする兵力を以て陽泉、昔陽附近を守備すべし

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

南方に対する攻勢拠点として一部を以て太谷を保持すべし

目下石家莊に在る歩兵第七十七聯隊長の指揮する部隊は近く復帰せしむ

五、兩師団作戦地境を左の如く定む

河樹底（閻城鎮東々南方約二十三粁）、鳴鑾鎮、六堡鎮、集義村、祁県、祁県――文水道上汾河渡河点、汾河の線

線上は左師団に属す

六、各師団は其作戦地域内の安定に任し且つ鉄道を警備すべし

作戦地域内の諸県城は我軍利用するものの外將来の攻撃を顧慮し適宜城壁の一部を毀却すべし

七、予は石家莊に在り

第一軍司令官　香月中將

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一軍作命甲第一三九号別紙

軍隊区分

第百九師団（中將　山岡重厚）

欠除部隊

歩兵第百十八旅団司令部

同　第百十九聯隊

同　第百三十六聯隊の第一中隊と第二大隊

騎兵第百九大隊の主力

配属部隊

小林砲兵聯隊

近衛師団第四野戰高射砲隊

第二十師団

配属部隊

獨立機関銃第四大隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

獨立輕裝甲車才五中隊
獨立山砲兵才一聯隊
野戰重砲兵才三聯隊（野戰重砲兵才一旅団輕重牛部屬）
獨立野戰重砲兵才八聯隊（才一大隊及聯隊殿列牛部欠）
迫擊才三大隊
近衛師団才二才三野戰高射砲隊
獨立工兵才四聯隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一軍作命甲第一五九号

第一軍命令

十二月十三日午後九時
於石家莊軍司令部

一、軍は第百八師団の帰還を機とし第十四師団及第百八師団を以て河北平地現占領地域を確保せんとす

二、第十四師団は邯鄲、彰德、大名の間を守備すべし
敵の南方又は東方よりする大規模の反攻に対しては主力を以て平漢鉄道方面より有力なる一部を以て林県―輝県道方面より新郷平地に作戦し得るの準備をなすべし

三、第百八師団は主力を以て高邑、順德の間を守備すべし
歩兵二大隊を基幹とする兵力を臨清に位置せしめ衛河渡河点を確保すべし
又歩兵一聯隊（一大隊欠）をして随時鉄道に搭り石家莊に到り軍直轄たらしむるの準備に在るべし

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

軍兵站監配屬部隊は石家莊に到らしむべし

師団主力帰還行軍の爲鉄道監部と協定の上邯鄲より鉄道を利用し得

四、才十四師団、才百八師団間の作戦地境を左の如く定む

章庄（武安西北方約十二粁）、臨洺関、永年、南館陶、范県の線

線上は才十四師団に属す

五、各師団は作戦地域内の安定に任し且鉄道（才百八師団は高邑駅（含む）以南）を警備すべし

六、軍兵站監は配屬部隊の到着を俟て歩兵才十七聯隊長の指揮する部隊並歩兵才百五聯隊才二大隊を原所屬に復帰せしむべし

七、予は石家莊に在り

才一軍司令官　香　月　中　將

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一軍作命甲第一五九号別紙

軍隊区分

第十四師団

配属部隊

獨立機関銃第五大隊

獨立輕装甲車第一中隊

戦車第二大隊

獨立山砲兵第三聯隊第二大隊（同聯隊殿列半部隊）

野戦重砲兵第二旅団（野戦重砲兵第六聯隊及旅団輕重半部欠）

獨立野戦重砲兵第八聯隊第二大隊（同聯隊殿列半部隊）

第一通信兵情報隊

獨立氣球第一中隊

近衛師団第一野戦高射砲隊

第二師団第一渡橋材料中隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十四師團架橋材料中隊

第百八師團

欠除部隊

歩兵一聯隊

野砲兵第百八聯隊の一中隊

配屬部隊

獨立機關銃第九大隊

野戰重砲兵第六聯隊（一中隊を欠き野戰重砲兵第二旅團輜重半部屬）

追擊第五大隊

第三師團第二野戰高射砲隊

第二師團第二架橋材料中隊

軍兵站監配屬部隊

第百八師團の歩兵一聯隊

野砲兵第百八聯隊の一中隊

野戰重砲兵第六聯隊の一中隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才一軍黄河以北戡定の爲の作戦計画

昭和十二年十二月二十五日立案

才一　作戦方針

一、軍は才二十師団を以て臨分平地及蒲州平地を、才十四師団を以て新郷平地を攻略し南部山西省及河北平地を戡定す

二、攻略開始は才十四師団二月十一日（紀元節）才二十師団二月二十三日とし作戦終了を概ね三月十日頃と豫定す

三、作戦終了せば四師団を集復配置し已占領地域を確保す

（備　考）

本作戦開始の爲軍に才二軍に転属せし獨立山砲兵才三聯隊才二大隊（聯隊司令部列中部隊）獨立氣球才一中隊の帰属、及才百九師団本川旅団（歩兵一聯隊欠）の原隊復帰並支那駐屯混成旅団所属の歩兵一聯隊、山砲一大隊の新配属を方面軍に請求す

才二　指導要領

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

其一　作戦開始の爲の軍隊区分

第二十師団

配屬部隊

獨立機關銃第四大隊

獨立輕裝甲車第五中隊

獨立山砲兵第一聯隊

野戰重砲兵第三聯隊（一中隊〔旅団輕重の一部屬〕を欠き旅団輕重の約半部を屬す）

獨立野戰重砲兵第八聯隊（第二大隊及聯隊段列半部欠）

追擊第三大隊

近衛師団第二野戰高射砲隊

同　第三野戰高射砲隊

獨立工兵第四聯隊

第百九師団

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

配屬部隊

野戰重砲兵第三聯隊の一中隊（旅団輜重の一部屬）

近衛師団第四野戰高射砲隊

第十四師団

配屬部隊

獨立機關銃第五大隊

獨立輕裝甲車第一中隊

戰車第二大隊

獨立山砲兵第三聯隊第二大隊（聯隊段列半部屬）

野戰重砲兵第二旅団

獨立野戰重砲兵第八聯隊第二大隊（聯隊段列半部屬）

第一重砲兵情報班

獨立氣球第一中隊

近衛師団第一野戰高射砲隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二師団第一架橋材料中隊
同　第二架橋材料中隊
第十四師団架橋材料中隊
第百八師団
欠　除部隊
歩兵一大隊
配属部隊
支那駐屯混成旅団の歩兵一聯隊及山砲兵一大隊
獨立機関銃第九大隊
迫撃第五大隊
第三師団第二野戦高射砲隊
軍直轄部隊
第三師団第一野戦高射砲隊
第三師団第三野戦高射砲隊
第一軍通信隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

其二　各兵団行動の概要

四、才十四師団は二月初旬より逐次鄭河南岸地区に兵力を集結し作戦行動を準備す

二月十一日より攻撃を開始し当面の敵を黄河以南に撃攘して新郷平地を攻略すると共に機を逸せず一部をして懐慶――沢州――沁水――翼城――曲沃道に由り曲沃平地に追撃せしめ才二十師団当面の敵の退路を遮断せしむ

五、才百八師団は才十四師団の進出に伴ひ其主力を邯鄲磁県附近に移し才十四師団の守備勤務を継承すると共に応変の態勢を執る

才十四師団の攻撃進展に伴ひ歩兵四大隊、山砲一大隊を基幹とする兵力を以て概ね二月十三、四日頃より行動を起し彰德――林県――潞安道方面より潞安を占領す、要すれば更に主力を以て屯留を経て臨汾平地に前進せしむることあり臨清及大名の守備兵力は一時歩兵

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一、大隊を基幹とする兵力に減少す

別に歩兵二大隊及野砲の一部を以て彰德を守備す

六、才二十師団は概ね二月中旬迄に逐次介休東西の線に進出し作戦行動を準備す

二月二十三日より行動を起し当面の敵を黄河以遠に撃攘して臨汾平地及蒲州平地を攻略す

七、才百九師団は才二十師団の進出に伴ひ才二十師団の守備勤務を継承す

離石方向より前進する敵に対しては所要に応じ之を攻撃するの準備をなす

八、軍司令部は二月十一日以後彰德に移る

九、軍兵站監は才百八師団の歩兵一大隊を以て石家莊を守備す

才三　作戦終了後の処置

其一　作戦終了後の軍隊区分

十、才二十師団の獨立機関銃才九大隊、獨立輕装甲車才五中隊、野戦重、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

龍兵才三聯隊（一大隊と聯隊段列半部及旅団輜重の一部欠）を才百九師団に転属し、獨立工兵才四聯隊を軍直轄とす

十二、才十四師団の野戦重砲兵才大聯隊の一大隊（聯隊段列半部及旅団輜重の一部属）を才百八師団に転属す

其二　作戦終了後各兵団の任務及作戦地境

十三、才二十師団は臨汾平地及蒲州平地

才百九師団は太原平地、忻県平地及陽泉、平定附近

才十四師団は新郷平地、才百八師団は各々一部を以て潞安、大名及臨清を守備し主力を以て順德、湯陰間の地区の確保安定に任す

十三、作戦地境

イ山西兵団、河北平地兵団間

娘子関（葦沢関）、黄嶺関（遼県東北方約四十粁）、遼県、屯留

窰湾（沁水東北方約二十粁）、沁水、垣曲を連ぬる線（線上は山西兵団に属す）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ロ、才二十師団、才百九師団間

隰県、洪洞、窰湾を連ぬる線（線上は才二十師団に属す）

ハ、才十四師団、才百八師団

窰湾、高平、淇県、東明を連ぬる線（線上は才十四師団に属す）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp